



義門師
活語
卷1-2

義門師晚稿
重民翁補成

活語指南 二冊

此書は詞ハ衢の平キ筋と好不^レ_レの^レ之と^レ手爾表波乃^レ大ぬ^レ中の^レの^レ縁と^レと^レは^レ是^レの^レ如^レ凡そ御國詞如^レる^レの^レ義と^レ難^レんと^レ志^レん^レ人の^レ必^レよ^レ給^レ入^レる^レ書也 三都書林 合梓



然^レあ^レる^レま^レご^レか^レさ^レな^レり^レ如^レく^レい^レい^レよ^レ
み^レあ^レる^レひ^レて^レん^レや^レい^レふ^レあ^レる^レう^レな^レあ^レ子^レと^レ
も^レた^レ事^レて^レい^レあ^レや^レう^レい^レや^レひ^レ見^レ勢^レた^レま^レひ^レ
く^レ和^レ語^レ説^レ略^レと^レい^レふ^レと^レの^レた^レま^レは^レら^レ
ら^レぬ^レ免^レ古^レへ^レの^レ詞^レ乃^レ格^レを^レこ^レら^レた^レま^レへ^レ志^レめ^レ
ら^レま^レん^レ料^レな^レめ^レれ^レども^レう^レひ^レ字^レの^レん^レす^レた^レ

今ハコトづくク躰言ト云ヒオケルノツト意エヨコレニ有形无形アリ下云

已然言

然アツテスンダ処ナリ。將然未然ニ對シ考フベレ已ハチヤントスンダノナリ。花開ケバト云ラ花開カバト云ニ對シテ考フベレ咲カバハ未ニ咲ケバハチヤント云

右ノ五ノアルヤウ。將然已然始終ニ相對ヒ。連用連躰前後ニ相

對ヒテ。其中ナル截断コレアラユル詞ノスワリラサテル処ナル定格自

然ノ妙用奇々妙ナルモノ。抑此五ノ分レノヤウ猶活語雜話二編ノ十二丁

ナル示レ亦詳ナリ。往見。

希求言

世ニイハユル下知ノ詞。コハ下知ト云ヒテハイカニゾマ覺ユルモアルカラニ友鏡ニハ使令トイヘレドソレモヤハリアタラヌワケアルユエ。略圖ニハ又アラタメテ希求ト目ケタル。主君ニムカヒテ云云レ玉ヘト申ス玉ヘノペナドコレ下知使令トイヒテハ當ラヌニアラズヤ。

○

活クトハ。タトヘバ思ト云ハ思ハシ思ヒ思フ思ベヒ然兼希求斯様ニス。ひふへト動ク類。スベテ略圖ラミテ曉了セヨ。

○活カヌトハ。君ガ思ヒ。我思ヒナド、云トキハ。思ヒト云ガ一名目ナレ

バコレ即躰ノ言バニテ活動セヌ詞トナルコレラ躰言ト云。コノ

思ヒハ元來ハ用言ラ躰言ニセルニテ原ヨリノ躰語ナラ子ト物ノ

名。事ノ目ナリテ活動セヌキハ全コレ躰語ト云物ノ産ヨリノ

躰言ト云ハ。雨土人鳥ナド、云モノ是。斯ク分ルガ本躰ノ分

レ。ソレニ又上ニイヘルスベテ物躰ナキ詞ニテモ。タトヘハ語辭ノ

中ニのヤナドハ躰ト云ヒ。タリぬるナトハ用言如ラ心エ置テヨ。タリ

ハタリタリタリタレト動クユエ活用スルカタニテカセテ用ト

云フ。コレハキコエタレド。のヤナドラ躰ト云ハツテラヌト難評ス

ル人モヤアラン。サレド坎ハイハユル活用セヌ方ヨリ。レバラク

躰トイヒオクニトガムルヲ勿レ。

○躰語凡ソニト分ル。一ハ有形躰。二ハ無形躰。用言搏シテ躰言トナレルニモナホ以ニアリ。フ、^包ビラ堤^{ツミ}。如キハ有形躰。思ふラわりのひ。伝カ如キハ無形躰。カクテコレラノ躰言ヲ受ル辞ハ畧図ナル連躰言ヲ受ル辞^レ中ニ如^レノ一ヲ除テ自余ノ哉^ヨリあり。ナド十^三ト。サテ^レのノ辞ナドコレ^レ。のハスヘテ躰ト用ト。或ハ躰ト躰ト。又アレハ連躰言ト躰言ト。凡ソコレララツナギ連^レクル辞ナリ。

○此五種云云。形状字面半虚字云云。コノコトハ山口^九栞^右ヲミテクハレクハレルベレ。五種ト云ハ無ノ字標セルヨリ有ノ字^九奉^右ゲタルテ^レノ五ツ^レ。形状ハありく^レトヨムヘレ。物ニテハ^タ貴^レノ類。事ニテハ^タ善^レノ類。此^レミナソノアリサマアラハスニテ。カノ^タ貴^レト^レ麻^レ行^レ四^レ段ニ活キ。あ^レく^レは^レトヤウニ佐行^レ変格ニ活ク如キ。アサレキ用言ニハアラサル。故ニコノ諸語ニアタル漢字ハ実字死字ニハ非レドモ。正ク虚字活字トハ云カクテ半虚字ト云^レ。

○八衢ト云ハ本居春庭翁ノ著述ノ二冊ノ書

○現在過去ト記シテ。現ナルハ^レツ^レキ^レニテ無ト正トノ二字

ヲ目^レジ^レル^レシ^レ。過ナルハ^レツ^レキ^レニテ目^レジ^レル^レシ^レノ漢字ナ

ク。空^レナル。コノコトハ要論ニ。詞五緒六卷^二丁^一ヲミテ曉ムベシ。

○^下ノ^二以^レ五^レハ^レ形状^{云云}。コレヨリノ三十五箇ノ云云。コノニ四種論^云ハ

ルハ言語四種論ト云ヘル一冊^{尾張ノ鈴木服ノ著ハセル也}ノ一也。

○^充方^ニ横^ニト^レ布^置セル^レハ^レ連^用ラ^レ受^ル辞^又ハ^レ截^断セル^レ辞^レニ^テ受^ルハ^スベ^テ將^然言^フ。次ニ

ハ^レ連^躰ハ^レ已^然ラ^レ受^ル辞^{ナル}。其^中ニ^レ諸^活用^言ハ^レ截^断セル^レ辞^{ナル}。

セル^レ者^一ノ^レヨリ^四段^活ノ^レ羅^ハ貫^キ通^ルサルハ^レ將^然言^ヲウ^ケル^レ辞^ニハ^レズ^ノ。又^レ已^然言^ヲウ^ケル^レハ^レズ^ノ。三^ナカ^ラナル^ナド。

ト然ラザル

截断ヲ受ル辞ナガラ。ちりまし。せしナドハ果ト標セル活キノ一テへ通
リテソノ次上ナル有ト標セル処ニテハ截断ノリハウケズシテ連躰ニカリテ
ある。し。ある。し。ナドイフ例トナレル

トイヒ下ニ

ト示シテアルハ右ノ義ヲ覚知セシメントナレバ

心留メテ見ベシサテヤモ向カクル意ハへノハ
用言へ貫キ渉ル辞ナルゾサル類ナホアルベク又諸活へ通ラヌ

ナホ將然連用截断連躰
毛 已然希求云々ヲ分テ受ル辞

コニモレタル少ナカラス此図ニハ其大凡ヲ舉

ラレタル者ゾト知ルベキ也サテ右五ツニワカル受ル辞ノ中ニ截断

ヲ受ルカ中ナルハ精ク示ス片ハニツアリハ歎息ノナ

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ト思テハ宜ラスノナナリ 九歎息ノナハ契リさるナド諸活ノキル処

ニテ詞ノ止ルコト知ベシ

○畧圖ニハ畧シテアラハサレザリシカド右受ル辞五ツニ分ル中其
截断ヲ受ル辞比ノ中ニ諸活用言へ貫キ暢ルハハハハハハト云クシヤホナド
ハ希求言へモツクコト古哥古文ヲ考へ知レ但圖ナルハ打佳テハ向カケノ
也希求言ニツククハ必歎息ノミ

△第一

無字ガカキアラハレテアル故ツレニアタル也
ト云詞ニテ將然連用ナドノ証ヲ先云ハン

將然

將然言

將然ヲ受ル助辞ハルツをニツアリハ將然ラウク即コノ意
有クモ今ハ已然ヲ受ク多クハト云クハソレニナル

古今

○うゑひよの谷より出るまゝあくコハ初テノ処故斯迄断リオク自下准知スベシ
此ハ清音ナレバハオ四子ハノ処ニ云ベシ

コノ書ハ言語ノ活用ノコトヲノミム子トスルナレド初学ノタメニ
引哥ノアラマシラ俗ビ言シテ聊ツイヒモテユキノイハユル

活用ノコトヲ云ベシサルハあめひくはしラニ抄ニ根ザレケント

オボレタテカノ古今遠鏡ニ雅言比テ俗言モテ諺訳セルニ

例テ物ス然ラデハワラハベノ為ニハタドノレキノミナラント

テゾトツ此哥ノアラレハ谷カラ鳴テ出テクル鶯ノ声ニ

春ノキタノガシラレルガモレ此声ガあくバ春ノ來タコト誰

ガシラウゾトコレカラサキノコトヲ云あはれむトイハ既ニ無イニヨツテ
ノコトヲイフニ對シテ考フベシ

く 連用

連用言初学ノ為ニイハシ花ハ舩言ナレドコハちくちくト
ちくへつちくちくナレバハコノハ連用ニテツカヘルモノ

○久々の光のどけきまゝの日はあつちかたのちるらん

日ノ光リノ長閑ニユルリトシタ春ノ日ヂヤニドウ云コト花ハ
ジツチリ惣々寛々トシタルレツカナ心あり散はコヤラ伝哥ニ

散ハちらちでちるちれト云活キ略去字標セル行ノ用言

ツイデニ云此オ四句ヲ遠タレク
ガワクナド釈クハカナヒカタレ

○久望のひくものときまの日はあつたなく花のちるらん

詞通路ニ云フ次ノ詞ヘノミカル」ソノ詞て」をよノ句ヲ

ヘダテ、ム子トカ、ル」カコミタルハ枕詞ニ花のト云詞ヲヘダテ

テちるへツック。此通路ト云書合セ考テ可レ但レ
日ノ花のちるトカケテミルハ更ニ補テゾ

○志もゆふ暮城山一峰ゆきのまきく時たぐく松もあゆむを

志 截断

○こゝろあはばさくげやあらぬ桜花みちりれまゝあつたあか

此様ニ早ウチルクラ井ナラバ、イツソサカズニアルガエイノニナセ咲イタ

サカヌガレシギヤニ見ル我マデユツタリトレツカナ心ナレト云ヒキ

ツタノナレバ、なハ截断言ニ

○系やとえ雲ふりしそそ乃もあ。ふも多てとみんくちたれを

コレハ三ノ句ニテキレタリ。

○をらくのそんとありせを門さうて那。そへてあはざうまうを

コレハ形ノ十截断シタルヲト受テ答へト云用へ又イヒツバ

ケタリ。答ハ答へ。答ふ。答ある。答われ。答へ。ト云活用ニテ。

畧図ナル経、字ウ答字ニカヘテミベキ詞ニ又ま。ト云フ。トニテ受

ルコアリ。トハモト截断言ヲ受ル辞ニハアラス。サルニヨツテ答し

ト清ト深トナド云ルコハナキニ。尔ル処コノま。トニツキ

テハコニ意得ベキコアリ。コラガてエをえ学^レノ心用ヒ所ナルグッハ
 ○^{古今ニ}とむべきおとハ。二もくもあつちをこもたがふらう
 ○^{日三}わとぎの糸とふる。二うのむのうを世の中^レのつらうらん

コレラノなる。ハ截断言ヲ躰言ニイヒナセルニ。又友衛^躰磯千鳥
 浦衛^カ斯様ニ何千鳥ハ躰言。然^レ友を。子多ト云コアリ。是
 用言ノキルコトバチマノニ
 躰ニイヒナセルニサレバ。おとハ。二あつちハ。二ナド
 云ヘルハ。二。躰ニ云ヒナセル故ニ。ト受ルニ。畧^レ図オ一行ナル
 無^レ字ヲバ浅字深字。又ハ長短早晚ナド。オキカヘニベキ詞^氏
 ノ夥^キ底影ニ集^ル中ニ。二限リテ躰言ノカハリニナルコアル
 へタル如クニ
 此ニ類例セバ。浅^レ一^レ晚^レ一^レナド都テくまきノ活^キ詞^ハ皆シ

カルベキサテナレド。然^レハイヒ難^シ。畧^レ図次ナル正字^レシルセル行^ツニ
 入ルヘキ慈^一一^レ悉^一一^レナドスベテ。ま^〇ま^〇ま^〇ま^〇ま^〇活^ニテハ。ま^〇ラ
 躰ニセルコト子ナラ。ンレニムカヘルハ。くま^〇ま^〇ま^〇ノ方ノ恒ノ定リ
 ハ。ソノくま^〇ま^〇ラ。ハブケル。ニテ躰トナル。山口菜下卷ナル
 図ヲミテ知ルベシ。清。源川いとまの身やナトノ如シ。但^レ日本
 一^レ布^コトイヘルナドハ。いう布^コは。例^ゾト。コノまよ源川ナドノ例ニ准^ヘナバ。云ベケ
 レド。ソレヲい^一一^レ布^コハ。友を。子^〇多ト云ベキヲ友を。一^レ御^トイヘル類ニ。ソア
 リケルカ。ル類例モテ。レノ。ニハナホアラメド。ソレナガラ。い^一一^レトヤウニ云ル例
 ハ。ツナキ^一一^レト思^ハル。イカナレバ。ニカ無^一一^レト云^ル。ノミハ。有^一一^レトイヘル
 多^キゾカシ。但^シ玉緒^〇分^ニ又
 復^説アリ。ソレヲモ考フヘシ。ソレガ中ニテ件^〇ノ。有^一一^レノミハ。友を。御
 ト云ベキ如ク友を。一^レ御^ト云ルナドコレカレトアリ。意^ラ付^テ
 ミベシ。ま^〇ま^〇ノ用^キニテハ。ま^〇ラ躰ニセルコト恒ナルト云ハ

古イカイ
 〇ふのぬのなぬあひに燃はれえ林はなれぬむあひにかりを
 拾イミ
 〇里川のふとりの尾のあざり尾のあざり。あを独りも跡ん

ツイテニ云フ。此永ハ永ク。永ク。永ク。用キニテ。躰言ニスル
 トちり夜ト云エ。ちり。ト。重テイヘバ。ヤカテ搏レカハリテ即
 ちくち。あき。活トナル。く。あき。用キ詞ノニツカサナルハイ
 ツレモ状例。サテハちり。夜トハ云ズ。又用ト躰トニテハちり。し。
 夜。伝ベキナレド。此ラ。ワノ躰言ニレテハ即ち。し。伝ハ。言靈自然
 ノ格。然。ニ。ちり。し。伝。を。独。も。ねん。伝。ル。ラ。不。成。語。ノ。様。ニ。思。じ。ち。り。ち。
 ガ。伝。ト。ヨ。ム。ベ。キ。コ。ゾ。ナ。ド。云。ハ。元。來。詞。ノ。活。ト。云。フ。ラ。知。ラ。又。ニ。テ。又。夫。フ。ニ。夕。ヘ。又
 コゾカレ。
委クハ山口聚ナル因ニツキテ曉リ又ヘレ。法ミ速キナドモ。法ミ速キナドモ。法ミ速キナドモ。法ミ速キナドモ。
ナドハイハチド。疊レテハ。法ミ速キナドモ。法ミ速キナドモ。法ミ速キナドモ。法ミ速キナドモ。

ナドハ云ハ
 又定リニ

連躰

古今ニ
 〇ささるるむちりぬる風のちりよハあき。オ。イノをそぞたちける

枝ナ櫻ノチツタハ風カ吹タ故チヤガ其風ノアトノ名殘ニハ水ノアリモセ又空
 ニ浪ガ立ワト。中空テサワグ氣色ラ浪ニ見タテタル。水なき。ト
 躰ニツバク。空ハウゴカ又躰言。

コレハのトカミレル故をミト截断
 スル。

古今ニ
 〇思ひやるささひむるささるるささるるまよふあざりし人のなき。

スベテそのや何ノムスビトナルトキハ連躰言ヤカテ截断トナリ
 テ。然ルウヘニハ躰言ヘハツバカヌ。
躰言ハ。連クヘクレテ截レハセヌハツノ語カ上
 ナル。引掛リテ截ル。コレハ。未ノ結ビ。

けれ 已然

古今ニ

○まゑのふるはあまをさうさうとあるを惜まぬ人こそ自然言

櫻ノ散ルヲ惜テ又人ハある。バ、まゑのふるハ世間ノ人ノ花ヲ

惜ミテ泣涙ガ知ラヌト也。なけまハナイコノ決定シテスンデラル

也。此オ二句ノカラ哉トイヒ。又

十載十七

○その中よるこそなれ。多ひいる山のたぐふも麻をかくる。

右已然言トウブニハイハル、詞がこそノムスビトナリテハ截断言ト

云ベクナルコト。スベテそのや何ノ結ビはヒこそノ結ビトイハル

うれ 希求

上ニ云ル如ク世ニ下知言ト云。友鏡ニ使令ソレラ又略圖ニハ希求ノ言
ト云ル。物デモ事デモコヒ子カヒモトムル詞。サテ歎く如ク知れ
ノニノ形状言ノ用ギハ。希求ニツカフキハ羅行ノ一変格。リニテキル。四段ノ
活キトナレ。バ、コノ云様イカニツマ覚ユ人モアラシカ。ソレガタメニ略圖ノ
図シヤウ心シテアリ。氣ヲツケ見ヨ。横堅正スチノ通ル通ラヌグアヒラ。

万葉四

○これもわがひもをさる。おほはあまのうらみくせのやむきかたれ

外諸人ノ考ヘモアレドソレラノ議論ハ此書ノム子トアラヌコナレ

外諸人ノ考ヘモアレドソレラノ議論ハ此書ノム子トアラヌコナレ

バ都テコ、ニハハブク。哥ノ意ハ浦ニハツ子ニ風ノ吹モノチヤガ。其浦

吹風ノ如ク我モ思フソナタモコチノコヲ忘レズニ。絶エズ思ヒ止時

な。くれトコヒ子カヒボムル。な。くれノウ。ハくあノ約リタルニテ。止

時多クあれ。く。ニ有ノソハリタル。友鏡ニ有。此五段ヘオ一オ

二ノ兩段ノ詞ヒテ皆トリ来テらりるま。ト用ラカレニルベシ

トアルコレ。畧圖オ一行ニテハ。ウ。オ。二行ニテハ

正。一。ウ。ウ。マ。等。サテ右一首ハフルキ処デ出。テ。ミ。セン

タメ万葉ヲ引ニ。尔ニ此同ジ類ヒヲイトク近クテ例メサバ。

○分まよふ煙のうちにはあぢきなくのこもきつてあうれ

此一首ハ今世モ同様用フル言ト云フヲラセン料ニ近來ノ

哥ヲ奉テニスルニ。此近來ノト云哥ハ天明八年ノ事カトヨ京

大火ニテ御所ヘモ火カ、リケルニ西洞院殿

風月のきみトカソノコロ
哥ニイト名高ウオハセシ君

ノヨトセ玉ヘルトナン〇煙ノ中ニ君ノ行幸ノツ、ガナカレト思フ

ヨトコヒ子ガヒタテヘルニ。

右ノ歌四方硯
イナニニニニ

ツイデニ云。上ニアゲタル万葉集ナルハ笠女郎贈大伴宿祢家

持歌ニ。又後撰集雜四

たいへん

さうのみあ

○我もあふ人もあふるをありそ海の浦ゆく風のやむ時もあ

此のあふ。ヨリ上へ返テ思ふあふるをト云用言ヘカルニ。

あふハ連
用言ニ。又六帖ニ

○君もあへ我もあれどつらそ海の浦ゆく風の止まらぬ

コレモ下ノあ。ヨリあへるれどヘカヘルニ。浦吹風のノのハの

あふト云意ニ。

連用言ヲ一首ノラハリニオキテ上ヘ反ル
意詞ノ哥小カラス。玉緒線分ニ詳カヘ

右將然連用截断連躰已然希求六ノ分レテ。皆タツノ無

ノ文字ヲ奉テ示シタリ。此類若くはあふれナドイトノ、夥

シ。底のうげニ集ヘテアリ。推テ知ベシ。次ノオニニテハ種々ノ文

字ヲコレカレト交ヘテ出シミスベシ。コレヲ一隅ヲミテ三隅ヲ知

ル。立息用ヒニテ立息得ベキトゾ。

右ハ無清明ナドノ活キサノツ子ノ雅俗氏ニ
タクサンニ用フ定例ニコレヲマタ日本紀ニ

一ッ無^ナけ^ズ。催馬^ナ衆^ニ依^レる^ハ。ナド^ニエ。或^ハ。キ^ラ。そ^ノム^スビ^トセル^ヤウ^ノド^モモ。
又^ニッ^コ。ロ^エオ^クベ^キ。ア^ルソ^レハ^末ニ^因又^畧示^ノト^コロ^ニ至^リテ^イフ^ベシ。

△第二

正^ノ字^ガ。凶^ニハ^アラ^ハレ^テア^レド^{。次}上^ノオ^ノ無^ノ字^ノト^コロ^ハ清^シ明^シ暑^シ
寒^シ長^シ短^シナ^ドラ^収メ^モミ^ルベ^キガ^如ク^{。此}正^ノ字^ノ座^ヘモ^恋シ^キ惜^シ
シ^キナ^ド夥^シク^アル^ラ皆^正字^ニカ^ヘテ^ミベ^シサ^テ埃^已下^ニス^ベテ^オニ^乃至^オ四^{十五}ナ
ド^{。イ}ハ^ルハ^友鏡^ノ符^丁ナ^レ。畧^ノミ^持テ^ラシ^人モ^ツノ^略凶^ノ下^ノ処^ニ友^五オ^六ナ
ド^{。ア}ル^ラタ^ニヨ^クミ^居ハ^自ラ^レラ^レヌ^ベシ。

志く

将然

○^支々^{十三}。一ッ^{。將}然^ヲウ^クル^{。埃}ば^ラ清^音反^{。免}ハ^不取^也。オ^四ヲ^モノ^処ニ^イハ^シ。
○^{。一}ッ^{。バ}あ^{。小}を^とく^{。む}。さ^{。影}の^ねむ^{。う}の^ころ^もこ^{。い}づ^{。な}め

紫^ノ糸^ヲり^ノの^衣ハ^紫ノ^根ニ^テス^レル^衣ヲ^云ウ^ウク^レキ^色ナル
ベ^シ。此^哥ハ^色ト^云フ^{。タ}メ^ニ紫^ノ根^ノむ^{。う}の^衣ト^云タ^モノ^{。哥}ノ
意^ハ。恋^シウ^思ウ^ナラ^心ノ^内デ^思ウ^テ居^タガ^ヨイ^ヅ。色^ニダ^ステ
ハ^ナイ^ン必^々ト^云フ^{。一}。め^ハカ^ナラ^ズ。ま^{。う}。こ^{。を}思^ヘノ^をハ^狀辞[。]

一ッ^{。コ}ノ^をラ^用フル^ニ定^法アリ。
む^のを^くり^{。け}ニ^クハ^レ。意^{。一}。く^{。バ}ハ^意シ^ウハ^ナイ^カ。コ^ヒシ^クア
ラ^バト^云フ^{。意}ニ^テ未^{。決}定^セヌ^詞。
故^ニ未^{。然}言^ハモ^可。將
然^言ハ^モ可^{ナル}趣^ステ^ニナ^リ。

志く

連用

○^支々^八。あ^{。ろ}れ^{。と}娘^{。一}。く^{。も}な^{。り}今^{。よ}ひ^{。より}遠^{。く}あ^{。ら}は^{。し}何^{。れ}を^{。思}ま^{。し}

コ^ノも^ハ用^言ト^用言^トツ^ク間^ニハ^サテ^ルも^{。一}。れ^{。一}。有^{。る}

哥^ノ意^ハ。別^{。バ}ナ^{。ゴ}リ^ヲレ^ケレ^ドモ^{。サ}テ^{。ハ}ウ^レシ^クア^アル^{。カ}
ナ^{。今}夜^{。初}テ^物語^リシ^タレ^バコ^ソア^レ。御^{。近}付^キニ^ナラ^ザリ^シウ
チ^ニハ^何ヲ^{。恋}ヒ^シヤ。

○^日我^{。七}。て^{。し}久^{。一}。く^{。な}り^{。ぬ}位^{。の}え^{。の}こ^{。ろ}の^{。娘}ね^{。い}く^{。と}種^{。ぬ}らん

志

截断

志三 連射

連射言物ト云射ニツラナル

〇お坂のせきうきささきおちるるあうんあうん君をさめよ

秋歌逢坂にて人をさめんあうんあうん時よあうんトアリテ逢坂ノ関ト云

か下サレク其名ノ通りナラバヤハリ逢テ居タイ者チヤワカル、

人ヲ此関デトゞメヨ。

コレハセトカ、リテお。き。ト截断スル。ウツハ連射ニテキ。又言。

〇栗山ノ紅葉ふもけなく鹿のゝきさう時ぞ秋ハクハク

志四 已然

已然言ニコレトカ、リテお。か。れ。トキレル止ニイルニ准知セヨ

〇月をれハちがよおちるるあうんあうん秋ハハハハハハ

吾身独ノ秋デハナケレド月ミレハイロント物が身ニレミ涉ツテ感

がオコルト截断シテスワルこそトカニラ又トキハむトカどトカど

トカ受サレハちがよおちるるあうんあうんト云ヒスエルトハナラ又詞ニむど

ト受ル方ニテ已然言ニシテ彼將然言ニ對シ見ベキコイトノ明ニ

〇人むいさあはさき名のをらんむらん今もあうんあうんをいせん

志五 希求

〇久しうらあざあちるるあうんあうんせれとつらひヨウリ

櫻花ハツイチツテアダナモノチマケレド何率サカリノ久し

トコヒ子ガヒ求メテ瓶ト云ハ俗ニ云花イケノチヤガ千代万代

ヲモ経ル亀ト云ツノ名ガヒトツヂヤニ依テ櫻花モ盛リノ久

キ様ニ齡ノ長イウメニイケオイタレドツイチツタワヤささてハ

俗ニイケルト云フニ

後并三

古十三

詞苑九

○あゝくれと名をぬ山のくねふたふねなるものを人のなげきハ

千載十二

○うくりける人をたつ瀬のふおろしよをばし。くれとハねぬおを

右希求言ヲトト受テツゞケタリ。心オノツカラ明ニテ童蒙ト

イヘルゲニ希求言ト知ベシ。但シ此処ニツ念ヲ入テ論シオク

ヘキコアリ。あゝくれをばし。くれナド。れモジ即希求ナル

通例ナレド。又よヲ添フルコトモ時々アリ。カノ四段ノ活キノけ

せてへめれコレハよヨフヘヌコトノモモ。よヲ添フル事時々アルト同

例ニ。小大君集ニもくれよあさねのうこのちよむきふちまうとみ

れあゝくれをりけうへ。あゝくれといふをハなうくあらしと

やあやなくあゝめよハゝゆらん。コレ贈答ノウチニテ一首ハ長

くれ一首ハもくれよトアルガ。庄ニ意ハ全ク同キニテ知ベシ。此畧

図オニノ希求言ハ図ノ如ク。れ文字タゞニ希求ナレド。下タハ

よヲ添テモツカフコト。其処下テハアラハシエ又ガ畧セル図ナレ

バノコゾ。カハルコト庄ナホ意ヲ逆ヘニヨ。

△第三

コレハ株ニテ過去ヨカタル辞ユエ。已然言ハハル処ハヨクワカレド。將然言ハト云ル処ハ初学或ハ誦ラン此昏ノ終リニ才四十七八ノ人ハ

將然

け

將然言

古六 ちりユルんばてもいとくをの中も涙のさうなす風ぞしとめる

古今遠鏡ニ云。コレ世間ノ衆知テ居ラル。テモアラウガ。モシ知ラシ

ヤラズバ今ワシカ云テキカスヲ聞テナリ。庄此世ヲバ早ウステサツ

レヤレテウド風ガ吹テ浪ノサワガシウシキリニ折ヨセテクル荒イ
 海ベノヤウナ世ノ中デア、ドウモ落ツカヌアンドノナラスヤウスヂイ
 ヤソヤ、右モシ知ラシヤラズバハ言外ノ意ヲ示セルニテコレニテあり、ムルノ句意ヨク
 分ト云ヘシサレド知テ居ラル、デモアラウ、コレハ少シ的当シガタキ様、コル
 ハ早ぬノ活用ノト過去ノリヲ將然ノ人ニテ受タルナレバ
 「チヤント知テシトウテ井テヂヤロ」ナドコソ訳スベキヲヤ。

け 連用

〇何々けん。何々まゝく。何々多シ。其人ハ本む。連用 截断 已ト用ラク詞
 連射ノ三
 まゝくハまゝく。連 截断
 用 まし 連射 まゝく。然ト動ナレバツレヘツミケルケナル故
 連用トイハンモヨケントツ思フ。但シ人モまゝくモず。ドぬねニ類
 ヒテスベテノ將然言ヨ 受ル定格ナルト全射ノ通例ナルヨリイハ此
 けハタゞ將然言ニシテ連用ニハアラズモ云ベシ。即シカ定ムル人モアリ

テソレモ謂レタルトハ覚ユル。ナホ考フベシ。

こ 截断

〇うゝてね。き人を又て。より愛て。ふりのたね。そめて。截断ニ
 イツブヤチヨトカリ寐シタ時ニ恋シイ人ヲ夢ニシテカラ又ニヤウ又
 ヤウト思ウテ夢伝モノヲ頼ニシカ。ツタ。此ミラ名トスレハ截レハ居ラス。即此
 哥者三句よりハ射言へ連ケリ。
 〇名よめて。をねる。むくり。そ女。おぼる。ね。ち。い。き。と。人。よ。く。く。る。た。い。
 コレハキトキル、ヲトト受テツケタリ。

ツイテニ云。此哥ハ僧正遍昭之女郎花ト云名ガ可愛ラレサニチヨ
 ト枝ヲ折ツテミタバカリギヤソ。出家ノ戒ヲ破ツテ女ニオレカオ
 チタト人ニ云テハナイゾ。コノ娘部志ヨ。をねるト云詞ハ本四

古四
○きのふこそ子ぬそりいづつのもいづちもあそむるよぎも秋風のみく

ツイ昨日ノ様ニ覺ユルヨ田ヲウエシテチヤカ何ノ間ニ共様ニ稲ノ

葉ガソヨノトシテ秋風ノ吹ヤウニハナツタゴゾ

四六
○糸をあらうもの浦にうづらむをうつのおまをみまき

コレハトヲヲ受テ連ケタリをどもノ三ツハ惣シテ已ニ

然ルヲ受ル辞ニオ四ノ已然言ニ証歌ヲ出スサテ又コノ過去ノ

き一ノ四ハ下ノ処ニトアリ此ハ希求言トスルヲハナキゾト

ナルハ次ノざんハ又希求言ハヘル標ヲ受ベキガ為ニ細カニ三ヨ

△第四

...

○む

將然

古五
○かゝ糸をこそあゝさうあゝさうさうけりあをいづはを玉の法にせん

此將然ヲ受辭ハをノミニ有ラヨリ次ノ諸將然ヲ受辭ハ多カレド此テ及テハバカリニ故ニ因ニ圍テア

糸ヲアチラヘコチラヘヨリカケテモシソレガヒトツニアハイデ緒ニナ

ラスバ玉ツナグ緒ニ何ヲセウゾ我意モソソナ物ヲアチコチトスレ

氏モシアハレズバ命ガツバクマイ

古言清濁考ニむハモトむハトスミテノ三訓ベキニむヲ濁ルハカラブヨミニシラ音

便ニ漆ヘクルカラむんむト鼻音人ニヒカレテむヲ濁レルヨリオクルハハルハ例ナルエ
タルノ様ナレド已然言ト將然言トヲ受ルハ諸活用言ニ涉テ三ナ濁ル例ナルヲ
考ヘミテマハリむハハクサルニヨツテカノルハハバあハ居とをありまき一とえ
むハありとも花とえま一やナド一首ノウヘニテ一ハむハハトソノ濁ルト清ムト
ノ差別アルナド味フベシ多クむをむハナドモ准知セヨコレモ善くんをナド漢籍
訓ノウツリニテ等ハル免ニハハヒル

○む

連用

古四
○こえをくぬきの川のよむをあらむをこりりや人のおもたん

連用言ニ行クト云用ヘラナル行ハムムミヤルハ

絶ス流レテヨドンダノナイ此飛鳥川ノヨドミタラン様ニアレガ
モレサシツカヘテモ有テ通ハヌツガアツタラナンゾ心ニシナノアル
ヤウニカノ人が思ウデカナアラウ。

連用言けりトウクルハ
三ナ連用

○^{五六}くや人のせしめいもあゆま芳野の淵^奴なほあやぐり
隼 湍門 磐 年魚 尚 不及 家里

○^{四八}梅花折毛不折毛見都禮村母今夜能花爾尚不如家利

コレハ折リヌもを^レびヌも為^レつれもニテ見^トイフ用言^連
ク^リ。び[。]ナル[。]コ[。]レル[。]レ[。]ル[。]リ[。]モ[。]固[。]ヨリ[。]ら[。]り[。]る[。]レ[。]ト[。]用[。]ク[。]言[。]ソ[。]レ[。]ヘ[。]ザ
ヨリ連[。]ケ[。]ル[。]ニ[。] 此ナリハルモを^レびヌルモ此処ハ用
言[。]テ[。]言[。]ニ[。]レ[。]テ[。]モ[。]ル[。]ニ[。]云[。]ハ[。]ニ[。]云[。]ニ[。]

〔おぞ〕 截断

〔截断言〕

○^{古五}子子振神代もさく[。]〓立田川くくえなみく[。]あくる[。]とく[。]

立田川ニ紅葉ノ流レルハトシト紅葉鹿子紅レボリト見エル此様
ニ川ノ水ヲ紅レボリニシタト云[。]フハ神代ニモキカヌ[。]フヤト上
ヘカヘリキレスワレル[。]ぞ[。] 〔截断[。]フ[。]ト[。]受[。]テ[。]ス[。]ケ[。]タ[。]リ

○^{四二}花のちハ[。]ま[。]あ[。]こ[。]め[。]て[。]さ[。]せ[。]ぞ[。] も[。]香[。]を[。]さ[。]ず[。]こ[。]ね[。]ま[。]ま[。]の[。]ひ[。]を[。]

〔ぬ〕 連躰

〔連躰言山ト云躰言へツケリ〕

○^{四三}ま[。]さ[。]し[。]て[。]ど[。]む[。]も[。]白[。]く[。]ぬ[。] ひ[。]ち[。]く[。]も[。]お[。]う[。]く[。]も[。]ね[。]い[。]う[。]ひ[。]を[。]さ[。]く
春ニナツテモ花モナイ山中ノ里テハナニモハリアヒガナサニ鳴[。]キト
モナサウナ声ヲレテ管ガナク[。] お[。]う[。]く[。]も[。]さ[。]ト云[。]ハイヤサウニ鳴[。]
キトモナサウナ声ニナクト云[。]フニ夕[。]ウ[。]キ[。]返[。]フニトケル打[。]関[。]ノ[。]解[。]
ナドハ宜シカラヌ趣キ遠鏡ヤ玉霰ナル辨論ニテ意得ベキ[。]ト[。]へ[。]

〇長し〜もろひぞとそぬ連躰ナレトキルハ上ノ石ニカ、レルカラニ。むりより逢人うらの秋の長きれば

詠

已然

已然言ナレドこそトカリテ截タル故見ハハ二四ニ趣トシ
ル。但シ秋哥ノナトハ茶こそち〜めノ、類ニテモハ雖不所
見ハヒソニ対ノ香ハ頭ハナヒキニ。

〇妻の長の宮えあやな〜梅のむとこそアス。考をハか〜

春ノ夜ノ闇ト云モノハワケノ夕、又物チマ。梅ノ花ガ暗ウテ色乞

見エ子。香ガカクレルカ。香ハ隠レハセヌ。カクレルデモナレカクレマ

テモナレドチラワケノ夕、又マミチヤ。

〇逢坂のわら〜の風をさむられどあ〜へあ〜ぬをさびつぞぬ

〇月えれむち〜と抱〜るれあひひらの秋はほ〜

〇君がゆ〜の白心ま〜ぬ。ゆ〜ゆ〜のま〜ゆ〜ゆ〜

右三首已然言ヲむどどもト受テツツケタリ。サテツイテニイフ。

コノ已然言詠ヲむト受ケタルニハ古今秋こ〜う〜をぬたぬ。コノ意

ナル多レハ〜。詞玉緒三八七ニニエタル。然ル〜。然レハ

コレラ状詠ノミニテ意ウベキニハアラス。諸活用言オンヲタ

テ已然言ヲむトウケタル詞氏。何レモ連躰言ヲムト受ハニ

似通ヘルアルハ都テノ例ニ。其趣玉緒線分ニアラトニエタリ。ツ

レヲ考ヘミルベシ。

詠

希求

希求ノ片ハ活用博ジテ羅行四段ノ形状言ノ例トナル。あれノ約ナレド。

〇あ〜せむや〜あ人のさうせ〜て、あら〜とたり〜人の〜

詠

連用

〇〜ま〜のゆくま〜を〜るの命〜も〜

新古今十三

カク躰言ニ云ヒナレテのト受ルハ諸活用言皆
其本連用言ナルト方定リトシ此トノヲ活雜三編ニ
精キ論弁アリ往見
思ひのまゝに思ひ
きけるぐノル井

截断

截断言

〇やどちうく梅むうゑト古あぢきまぐ侍人の者よあやまされり

アナ悔シモハヤ、屋ヤド処近イ庭ニ梅ハウエテイゾ待人ノ來モセ

又ニ其人ノ袖ノ匂ヒニあぢきなくワルハウトリ違ヘラル、ワヤハルニテト

ハ截断言ニ打聴ニぞあれを約めてぞといふトアルハ甚悪シ

又ツイデニ云、あぢきまぐノ無益
ト餘材及遠鏡ニ注セルハアタラズ

〇うりせごよを急ト古とぞあぢきまぐ侍人ノ者よあやまされり

截断ラトト受テツクル

連躰

ト

後科十五

〇あぢ川の游のいとまきやうとれを漫りにむとをよせト古のあや

連躰言物ト云躰語ヘツラナル

是ハねぢきねぢいまうち君の白川の家よまうりきたりて侍り

らるに人のさうしうこりりてトアリ糸ト最ト糸乃匂ニシテモ

ツトモ御目ニカハリタケレ私ノ様ナ者ヲメツタニ方ヨセハナサ

ルトイ物ヲマト歎息シタリ俗言ニイト云ハ見イト云キレモスレハ見
イト物ナド躰語ヘツキモスル如ク、此トハ

截レモ連キモススベテイト誘誤スレ但ニ雅ノハ連用ニシテ受、俗ノイトハ元来ハ
イトノ訛ユ截断ヲウクルガ本ニテ訛シテハ連用ヲモ受ルハ活雜三編ニ詳ケ

〇はりぢあなでいあんじよひのこぢぢぢ後をいハト古おぢぢ

カ、ル多カレドモシ人マリテコレハ連用言ノ方ニテノイヒクダシ

ト云モセバ但シイコトヘヨ有キ、あぢぢハぢぢぢハハル哥ヨリミレハ
如トハウケタルモノ、んトモニ右ノウタモキル、言ノ方ニテ云

ハルモノトモ云ベキニ似タリサレドコハナホある
あぢぢノ語勢ノ例は方ニサレリトオモハルニ

〇京

〇ふをば山のさくらうすまうせんとらんともわづらひのまじり

連躰言ヲハト受

コレラヲモテヤハリ志ノ連躰言ニテモアルコト知レト云夕ニ抑

右ノ哥ハ幽仙法師ノニテふくのむかてぬりきりてあるん

ふをきりついでよよめりトアリ御別レ申ハキツウ御残念ナ

ガ云テ拙僧ガオトメ申シタトテトナリハナサルテイコレハ此山ノ

櫻ニ任テトメウモトマイ花シダイニ致サウヨモヤ花ヲフリ

モギツテハエカヘリハナサルテイト云ナレハコトハトハ連躰言ナ

ルコレルベシ次上ニ示セルキルノト對ヘミベシ

あるしらぬ何あやる
くまひさけるさくさる
後料
あり処ハ

ありながらえあまづりける人よつかりたる亦金
うくて

葉哥

もえぞにま。さふ星の細谷川のふがそさ。右等ノハ

ま。トニテ略圖ニ行正字標セル志志
志
志

テうれい。同いみ。ノル井。此四どぬねノ活キ

テハナイニ混フルコト大氏人ノセヌコナレド童蒙ノタメカクテ

ヘタ念ヲ入置ムケニてコはシラ又徒ハ将然ヲ受レキト截斷ヲ受ルキトヲ
取チガヘテ油ル丁ジキマ。ラ油テ而レテ雅ノト。上ニ意得リ

△第五

ら

将然

「将然言

〇古

〇二端のふい。コ信。ん。幸ふともあゆむる人もし。

コレハ伊勢ノ哥ニテ。なうひらの胡呂あひさ。て信り。

くれ。コ。コ。り。に。ん。バ。ち。が。や。ま。の。う。み。コ。信。り。を。

まうらふてよまてつうらうら^トアリ。歌ノ意ハ京ニ居テモ
 面白クナイニ依テ。大和へ下リテスガ。三木の山むさし^トくを
 訪ひあませト古哥ニヨシデ有様ニ。今カラアノ方デ恋シイ人
 う待^ツタトテモ。何年タツ^氏誰モ尋テ來テクレル人モアル^イイ
 ト存ジテスレバ。ドウシテ待^テチオ、セテ逢^レテセウカイナ。伝へ
 ルナレバ。あう^ドハ未然^ラ云ルあら。ニテト受タル^シルシ。
 都テん^トま^ナナド受ルハ皆將然言ナル大方ノ定リ^ニ。
 ナル受ル^辞ヨク三ベシ。

〇^直びぬれハをうさまの根を終てさそふ^有。

〇^百二妹がおもつぎてみま^有をやま^有ある大竹のぬ^有家も^有ら^有ま^有を^有。

一云妹^{イモ}之當^ガ繼^ア而^テ毛^モ見^ミ武爾^ム。一云^イ家^ケ居^ケ麻^マ之^ノ乎^ハ。

〇^百四天^チの^ノえ^エと^トハ^ハナ^ナあり^アいつ^ツく^クう^ウさ^サみ^ミか^カふ^フね^ネを^ヲま^マち^チを^ヲらん^ン。

居^ルラ^ラモ^モ右^ミノ^ノ如^カク^クを^ヲま^マい^イん^ンナ^ナト^トニ^ニテ^テ受^ウル^ルハ^ハ將^シ然^ゼ也^{ナリ}。

有^リ居^リノ^ノニ^ニツ^ツ全^ク同^ト活^トハ^ハ云^モノ^ノモ^ト埃^ハら^リる^ルレ^ノ四^段ニ

レ^レテ^テオ^オニ^ニ音^ママ^マ文^字ヲ^ヲ截^キル^ル言^トス^ルハ^ハ有^リノ^ニツ^ツ居^字ニ^ニ當^ル

詞^ハ本^和行^一段^ノ活^キナル^ヲソ^ノみ^みあ^ある^るみ^みれ^れト^ト用^ク用^言ニ

居^有ト^ト形^状言^ニス^ルソ^レシ^バ音^ヲ轉^ジテ^テを^ヲ云^ルニ^ニテ^テコ^レハ

さ^あり^りラ^ラを^をあ^あり^りラ^ラセ^りナ^ドノ^ノ類^ヒニ^ニサ^レド^ソノ^ノサ^一異^ニ

ナル^様ニ^思ハ^ルカ^ラニ^紐鏡^ハ衝^ナド^ニモ^有居^ノニ^ツく^く伝^へル^ニ

从^ヒテ^テ此^書ニ^モシ^バラ^ク有^居ノ^ニ語^ノ例^トト^ジへ^出ス^ニ。

【己】 連用

連用言ナドト云用ヘツラナル

○^莫うの^有ぬ今まうつきのわどむりうれこもあぐもをんもが

イツテモ生テ居ル命デハナイ。オツツケ死ヌルヲ特ツツカノ間
チヤニセノテ其間ナリ氏トウグ此ヤウニツライ苦勞ノ多ナイ様
ニシタイ物チャト。なてまつると多行ニ段ニ動ク用言ヘツケリ。

○^{古十五}みるせ川ありてあくあちくバこそつひよこう方をたえぬと思え

連用言ヲト受ル。ハコレモ果ト同ク多行下ニ段ニつづるとハケラ
ケル用言。

○^{古二}心さうふうくそめてをり。バ消あへぬ雲のむとえぬらん

○^{百十八}をりあらし今夜ハのまんねとさげあらん。ハあさらんそ

【己】 截断

截断言ハ見ル。一云ハ截断ナリ

後并十六

○一あうよう。をまてそは田中。のう名のうちねもわりのろり

截断言

其様ニツレツツケテ御恨ナサルナ。余リ酒ニレンケラレテニゲナイ
レダデコツアレ。コチノ心ガタガウタテハ少シモナイ。笛ノ声タテ、吹
ウチニモ忘レハセヌ。貴様ノコラ深切ニ思フ心アリト截テスワレル。

○^{古十七}をぬれをさうぬふのう。いへむいよくみま。くほり。さあ。り。を

截断言故ト受ル

截断言

○^{古ハイカイ}人。あ。あ。ん。つ。ま。の。あ。さ。よ。ハ。あ。ひ。た。ま。を。胸。を。り。火。こ。こ。ろ。や。け。ん。を。

竹トリ物語

○^{土佐日記}う。ふ。さ。を。り。又。う。な。づ。き。を。り。

○^{十七モノ語}廿一日云。ま。く。ろ。う。と。り。と。い。ふ。ま。若。の。う。へ。あ。つ。ま。り。を。り。

○^{源氏五ノフ}男。ろ。や。な。く。ひ。を。お。ひ。て。戸。は。を。り。コハレバラク通本モテ示ス。コハ白ロよえ
居。や。あ。も。ま。い。トアル本空キミレハ新釈ニ明。

○手。を。ひ。さ。も。さ。し。き。を。か。み。入。て。を。り。

水鏡欽明天皇條

〇めの女云々野干ノみぬりて万垣のうへへのありてをり。男ををみてヨ、

閑居友上

〇ふの中のまさけうまをとりひをり。コレヲハヤ、後ノ居ナレドモ、

有リノリノキル、詞ナルハ俗言モ全ラ同シケレド、をりハるヲキル、

言トスベキ様ニモ思ヒテガフベキニ似タリサレド右ふやけをりノ如

ク都テマラ截ル言トスルハ上ニモ云ル如ク、をりハ本居有あまをり

切テレルナレハナホ活指雜話ニコノイト古クテマラキル、言トセルヲ証セ

バ古事記白檮原官ノ段ニ此登佐波尔岐伊理袁理比登佐

波尔伊理袁理登母云ナド尚アリコハ人多來入居人多難

入居ナリイリナリキル、詞ニナルコカク古クヨリノニテ閑居友ナルゴトク

近古テテ同シトハ抑有りともトハイヘド有るもトハ云又ニ同

ク居リモ居るともトハ云又例ナルラムケリ近キ世ニハ誤リ用ヘル

〇人少カラス万葉十六卷幡幢爾居ノ居ヲリトアル古点コフヨキニ近人コレヲサテ序

〇ニ云シ友鏡ニ此五段へ上ノオ一オニノ兩段ノ詞モヲ取來テらり

〇るれト活カシ見ルベシトアルハテフオ一ノニテイハバ

〇長からんふもあつば有長くあらんふもあつむ也

〇おもしろもなるとりり有おもしろもなるとりり也

〇羞よみくバ道なり有羞よみくバ道なり也

〇如帝如多くる。神へおハ有たほくある。神へお也

〇その中よるこそなれハ有乃こそなくあれ也

〇いくの及のそわかれたハ有をくあれ也

浦吹風の止時をくんハ　やむ時をくあれ也

万葉二八長歌ノ中ニ・天下所知食世者春花之貴在等云テ

ルモ。たよとくあらんとニカ様ニオノノくおきノ形状言ドモラ

悉クコへ來タレウツレニベシ。然ルキハ此オ五ノ活キノ語夥レキ

一ニオ二ノあくあきモ同レトシ

○いつとまきとそくあらんハ　あらん也

○君ヲ為るハ　をくあらざり也

○ちよおとくもくねハ　うまもくあれ也

○まげくねとまハ　まげくあれハ也

余リ證ヲ引出サンモクダシクウルサケレバ將然言連用言

ノ次オモナク少レバカリラコニハ挙タリ。此類オレテシルベシ。

●形状言ハハ物ノアリ様ヲアラハス詞也
ケイキウゲン
アリカタ
コト

る　連躰
言語四種論ノ名
ツケサマヨロシ

○胡あくくろはる芳のえよのそうきをおりひのある世ありり

毎朝タツ川ノ霧ノ浮テアルヤウニイツモノ、落付カ又思ヒノアル

世チヤサテモノ、

○君をのきあひうぢのまほふハいつハ雲のまゆるとさある

○みさごあるまをる船の夕塔をまららんよりをそれこそまらぬ

○松よりあしよりこひのせめくれむせんうさなまぞななるをる

○よの中ニある人トコぞざりげきものまらぬ

いつかトカハリテ截断トナルハモト連躰
言ナルスベテノ例

そトカハリテ截断トナル
居

古ハイカイ
古ハ序詞

古詞各
○ウミヨリ遠く遠くもきにたるとあひまびてあがめをる。居

ハスベテ連躰言ヲ受ク。連用ヲ受ル。トノ別考テ知ベシ。其連用ヲ受ル。ハち。ぬ。ぬ。ぬ。ト用ク。ト。ト。ト。ハタラカシテハミラレヌ。ハ連躰言ヲ受ル。ト。

〔札〕 已然

古ハイカイ
○まめあれど何ぞハよク菊ウヤのふれてあれど。有

まめあれどトハ。オレハ随分実躰ニ堅ウ身ヲ持ケレト云意。何ぞハよけくトハ。身ヲカタウ持テ。ヒナンニモエイコハナイト云意。ニサテ世間ノ人ハ菊ツタ萱ノ乱レタヤウニ乱レテ放埒ナモノモアレド。ソレデモサツミワルイコモナイ。ヒヨシナモノヂマ。余意ヲ含

古十七
○今こそあれ。有

古二
○序べゆくおかしを。有

古ハイカイ
○まめあれど何ぞハよク菊ウヤのふれてあれど。有

古序
○まめあれど何ぞハよク菊ウヤのふれてあれど。有

右已然言
ナル。む。む。む。もノウケ。又。こそノカ。リニテレルベシ。

〔札〕 希求

古十九
○かといふ長鳴を。有

コチノ且那ガヤス。トヨク寐イラレル。ト。コチヤ淋テナグサ。又。ホドニ。夜中鳴。ワタツテ且那ヲ子サセ。又。様ニ勤メテ必ク心アレ。郭公。ヨ。ト希求セル。

○^{ほむり} 履^もく^あこ^のまの^咽の^よふ^あれ^をと^をを^ねり^しく^を

○^{古三} あ^らう^らま^の破^もち^をし^破な^つむ^めぎ^ぬも^を沖^をを^れ浪

埃^う沖^をち^き浪^をと^云説^もア^レド^ソハ^イハ^ユル^詞ノ^活キ^ニ疎^キ説

之^折ハ^下二^段ニ^モ四^段ニ^モ活^ク詞^ナル^ヲ。ハ^文字^ヲ希^求ニ^スル

ハ^四段^ノ方^ナレ^バサ^テハ^沖に^反ヘ^ルニ^叶ハ^ズ。又^浪ニ^命シ^テ何^物

ヲ^カ折^レト^云コ^トヤ^ハア^ルベ^キ。浪^ニタ^ッチ^ニ折^レテ^アレ^ト命^スル

ナ^ラン^ニハ^をれ^よト^よ。文^字添^テ乞^云ベ^キナ^レサ^テ又^源氏^帚

木^ニさ^りも^もあ^こま^こが^子を^をあ^れよ^トア^ルナ^ドヨ^リ。フ^ト

思^へバ^よ。文^字添^テ希^求ニ^セル^カラ^ハ。ハ^下二^段ノ^用キ^反ベ

キ^ニ似^タレ^ド。然^ラズ^オ。四^音ヲ^其終^希求^トス^ルガ^アツ^ノ定

△第六

コレヨリ畧四ノ

リ^ナガ^ラ。稀^々ハ^ソレ^ニよ^ラ添^テモ^猶希^求ト^スル^コト^モナ^キニ^レモ
ア^ラザ^ルニ^思ヒ^テガ^フル^コト^勿レ。^訓ハ^ちま^まニ^ハコ^ノ細^論ナ^ケレ^ドフ^ハ大^方ノ
定^リヲ^略ヤ^カニ^云ル^ニコ^ソ。玉^緒々^々分^クヲ^三ヨ。

せむたけめ

巴^下ハ^レシ^テ希^求ニ^セル^ハア^ツハ^無キ^歟。然^ラノ^將然^ハな^らシ^ク
け^らハ^慥ニ^覺ユ^レド^めら^ナハ^思出^テズ^{。マ}ラ^連用
ニ^マル^モニ^シサ^シ、ナ^レサ^レド^コン^ハ元^来有^リヨ^リ出^テタル
訓^ビナ^レバ^コト^ワリ^ハカ^ハル^コト^ナレ^タマ^ノ、珎^ラカ^ニ例^証
ノ^ミエ^タル^ハ出^シオ^ク。ナ^ホ心^ツケ^テミ^ナ人^補ヒ^モノ^セヨ^{。又}
希^求ニ^ハノ^有無^ノ論^をれ^{。これ}ノ^处合^考。又^埃せ^れノ^下ア^モ。
コ^ノ造^語ヲ^審ニ^セザ^ル徒^ハ。壽^經ノ^訓読^ニ道^場超^絶セ^ラム^トア^ルナ^ドヲ^バ
解^シモ^カヌ^メリ^{。或}ハ^九ニ^ノ三^領シ^テ古^訓ノ^味ヲ^知サ^ラシ^モ憾^ムベ^キワ^カシ[。]

せら

將^然 コ^ノ造^語ヲ^審ニ^セザ^ル徒^ハ。壽^經ノ^訓読^ニ道^場超^絶セ^ラム^トア^ルナ^ドヲ^バ
解^シモ^カヌ^メリ^{。或}ハ^九ニ^ノ三^領シ^テ古^訓ノ^味ヲ^知サ^ラシ^モ憾^ムベ^キワ^カシ[。]

せむ

連^用 連^用言^故ん^ト受^ル

〇^互 一^ひこ^あひ^て朝^面を^なぐ^りう^けも^さい^もづ^いち^りせ^りん
暮^相而^隠 尔^加氣^殊 廬^利為^里

せむ 截断

古序 ○この殿さうべもとみりりされ奉のふむよむふ殿つくりせり。

此せりハ都テ躰言ニ付テ其躰言ヲ用言ニキカシムルトキノ辞ニテ、
為有ノ約詞ニ次ニ引万三ノ文字ノ填メサマニテ知ベシ。殿つくりせりナドハつくりハモト用言

ナレド。彼本ヨリノ用言ヲつくりりつくりりつくりりナド受ルキトハチガ

ヒ。今ハ其用言ノ連用言ヲハつくりり名目ニシ。所謂躰言ニナシ畢

テ後其ヲ受ル辞ルカシテ。故ニせむハ躰言ヲ用言ニ令キカシム聞ル辞ト云。歌ノ

意ハ此御殿ハナル程御繁昌ナラザヤ。御殿々々ツツバ、ガ段々ト三

モ四ツモツマイテサテ、結構ナ御普請云ヤ。三ノ句ハ枕詞。

古三 〇久堅乃天歸月乎網爾刺我大王者蓋爾為有リ截断言

せる 連射

古六 ○雪ふれハ雪ころりせる。草も木もまよこまよこまぬ花ぞさねたる

冬枯テ、ダ芽モテ又草木モ。雪ガフレバ春ニハサタナレノ花カサイ

タワヤハニテ。コモリ為有ル草ト躰言へ連ケル。

古七 ○あふとちまよおせる。あハかろ強くまよをうまよこまぬ

せれ 已然

古八 ○あふとちまよおせる。あハかろ強くまよをうまよこまぬ

一本家あしを。バトアルモヨシサレド今ハ一本ニヨリテコ、ノ

例ニシバラク出シオクサテせむハ為有ノツツマリナルト上ニモ

云ル如クナル。尚云ハバモシ然ラバせれト希求ニイヘル有ヤ。又

ああ約テレラバさトアルベレサラハセ。トハイハテさ。ハベキニ
 アラスヤト云シニ先^ッ其さトハイハテセト云ヘルハコハ轉音レテ
 せりトナレルニテ。譬言ハ居有^{キアリ}ノ切^ツナラバマ。ナルベキニ似
 タレドソレヲを。ト云ルガ如シ。猶例セハ生^{オホス}ト云トキハ
 おは。ト云ヘキサナレド轉音レテ。ハハヘルル井ノ一奉ル
 ニ堪ヘヌテ多カルト同例ト云ベク。又ハ為^{スル}ノ活キノセヨリラ
 マルレト活ク。ナニトナク自ラ然ルモノト云ベレカクテコレ全ク
 有^リト同活ナレバ。希求ニせ。ハモゲニナカルベキコトワリ。
 ハアラス。サレド此^レセ。ニカギラス。タ。メ。ナ。ド。何^レ
 モイハユル希求ニ用^{ツカ}ルハラサ。ク見當ラザル。カルガユエニ自下ヌ

ベテ **希求** 例ヲ欠ク其中一レニソレ乎トオモフハ其処ニ出シ
 オク **但** **シ** **オ** **三** **ノ** **如** **ク** **〇** **ラ** **レ** **ル** **サ** **又** **ハ** **有** **キ** **居** **キ** **ナ** **ド**
 ハ希求ニイクラモ云ヘルラ忘レザラメントテ。

らり 將然

〇 ^{古二} 君^ら。て^テ 誰^ニ ヲ^シ 足^ル せん^ト 梅^ノ の^も ち^と を^も 香^を も^し る^人 ぞ^も ち^る

〇 ^{古七} 水^の う^へ よ^う う^へ へ^る 船^の 君^ら ば^こ ぞ^と 中^り と^い ち^ま 一^つ 扱^を

此外カク受タルモ。又人^ノ ナド受タルモ。挙ルニタヘズ夥レ。

らり 連用

〇 ^{古五} 山^の 風^の う^け くる^る 志^が ぐ^み 八^な くれ^も あ^ら ぬ^葉 な^り け^り

〇 ^{古十二} 人^ノ 志^が くる^時 一^つ 各^々 妹^子 々^々 ち^り せ^を ち^り せ^を ち^り せ^を ち^り せ^を

又貫之集。我為のおなり。なぐろトアルモ。なぐろハスベテ連用
言ヲ受ル格ナルヲ思フベシ。

上ナル將然言モ此連用言モ。射言ヨリ直ニツゞケテ。君をらて。

「將然」受ル「射」

「連用」受ル「射」

「連用」受ル

君をらて。紅紫あり。おちり。なぐろナト云。此ツギノ截断

言ニテハ截断ヲ受ルなり。ト連射ヲ受ルなり。トニッアリ。てを

ち。ては片ハアレクト云キニアリ。声ガスルワアレク。連射言ヲ

受ルなり。ハコレ此通りソレ其通りナト、ワケライヒ述ルキニ

アリ。此連射言ヤタバチニ射言ヤヲ受ルるハ本にあノ約リナリ。

●又此連用言なるを。け。は。至。テ。ハイ。ヨ。ノ。講。釈。レ。テ。聞。ス。ル。様

ノ意ハヘニ。ヨテ十二八九ハ上ニ。文字アリ。凡のくけ。る。な。ぐ。ろ

み。ナニヅナレバソレ。其通りニエナガレテハイカズニシカラミ

ノ様ニヨドム紅葉ヂヤ。トテちりり。は類皆推テ知ベシ。

〇^三ま。毎。の。さ。く。り。と。あ。ま。め。ど。ひ。ん。こ。の。い。ち。ち。り。り

〇む。さ。そ。ふ。嵐。の。な。の。雲。あ。り。ゆ。の。の。ハ。我。ち。ち。り。り

た。文字ノナキハ。

〇^三泪。河。な。み。み。る。を。る。ね。ん。お。ち。り。り。の。か。ち。り。り

ナドコレモ少カラ子ド。るねんノツギニナニモミナカミヲ尋ル

テハナカツタニコノ河ノ。ト云ヘル意フクメレバ言外ニ。文

字ハ含メリ。伊勢物語ナル。つ。の。山。へ。の。ウ。タ。ナ。ト。モ。其。哥。ノ。前

ニ詞ノアリテかく旅のうき。う。つ。に。も。ま。る。人。の。あ。ま。ね。り。

々ウ伝へル意ナルタグヒスベテ考へニツベシ。
通本人ヨトアレド塗筆本のトアルが優ルケ新釈一冊ナル母ノ如シ

ちき 截断

○^古秋の野は人すらくむのまをあり。まんくもひていざとふらん

此秋ノ野ニアレク人ラツト云名ノ松虫ノ声ガスルワオレラ待

ノカト云テ。ドレヤ行テトクト事ノ様ヲ尋子タサウ。
コノ截断言ヲ受ルチクハコノ

約リトハイヒガタレ少異アル致サレド上ノカ、リぞのヤ何致ナド、こまはもナド、ノ
三ノカ、リニテ結語ノ薄ズル例ハ曰キ致。コノハ玉緒線分ノ上巻ニテ考ヘシ。

○^古我度んやのふらきぞむ世をうぢふらんまのいふなり。

いふト云詞ハ四段ノ活キニテふハ連躰モカヌレド。坎哥ノナドハ截

断ノ方ニテソレヲありトウケタル。ワカ庵室ハ京カラ辰巳ノカタ

遠カラ又宇治山ト云処ヂヤ。外ノ人ハ京近キ故ニ猶世ノウキヲノ

アル山ヂヤト云。ヂヤガ拙僧ハコレ坎通リテ年久レウ住テ居ル。コレ

此トホリニ。

コノ人といふなりハ連躰言ヲ受テノナラム伝人アルニ付テ尚細論アリ活雅四編ニ詳ニスルヲ見テ明メテヨ

○^古ろよあふるをふる抱きりゆつけていひ出せるなり。

いひ出せるハ連躰言ニサレドめりらんまどなりナド何レモ有字

ニアタル語ヲ受ルキハ必連躰言ニツク辞トナレル。上ニ既ニコトワレ

ガ如シサテソノせるヲ受タルなりハ截断言オノツカラレルシ。コノ外

につるあり。せゆるあり。ナド本ヨリツク詞ヲ受ルを。モ此詞ニ

アリテ截断スル処ハマナハト亦オノツカラ明シ。

ある 連躰

○^古天の系ふりさけられバ春日ある。こまのやまふいさく月うも

〇まゝきてまゝさうらしまろ妙の衣かきうらあめのかさうら
後於ハイカイ
 〇蒲のまのさるおろくさあろむちうらとあけはるりうら

右何レモてありノ約リノうら。此外ニとありノ約リノうらア
 リ五樽ノ活用ノ様ハ異ルナシ。但シ其ノ行リノうらハ雅文ニ
 ハラサノ、三エズサレドレニモナレトハ云ニジキ歟。
漢籍訓ノ語今偶
 今ノ類ハ勿論ニテ。

假名居モヤ、降テノ物ニ福田訓へし云因縁訓るべき
 歟。ト沙石訓ニ云ル如キイト多シ。必ソノ原ヅク処アラシ趣
 ナホ次訓ニ云へシ。
 たる 連射

〇古四
 女師をうしろめくも又ゆるバゆれ。あまむらりたてれを
 アノ女郎花ハ、女アレタ宿ニ見レバ人モツカズニタツタ一人居レ
 バサテモアキツカイナ物カナ。

〇古五
 吹うせを吹くうらみよ堂えおやまらうらうらあれうら

たれ 已然

〇古六
 たもたぬうらあれの雨もあつたれ。天雲をれつうらあれし
不念 零有跡 月夜 清鳥

序ニ云万十二廿悪木山木末悉明日従者靡有社妹之當將見社此有
 タルト読ルハ聞エ置レシ。ト訓テ希求ト三レハ終リ將見モ聞易ク思ハ
 ル。此ヨリ三レバ上來セカタけめノ活バ。此ハ希求ニセル例ハ欠レカド。然

ノ三モ定難キ歟。但シ件ノ社ハ告社飲み乞ナド多ハ連用言ヲ受テ願意ナルナレト。又ハ
 万五十九酒ニ許曾ト三エタルナドハ四段活ノ才四音ヲ希求ニセルヲ社受
 テヤハリ希求ノナラント思ハル。且着紫湖辨ニころほのさうぞくさなうらむいじんひ
 ハレ有社モ同例カト思ハル。
 りあうらおほせをさうられどのあつアルハ正ク希求ト聞ユ。湖十
 又ニお
 〇サテ又此たうらハ歌文ナ
ほせをさうられト三エタルハ仰置而直湖ノハ仰披て
 てあれナメレド。而有ヲ希求ニセル用格ハ氏ニ同シ。

ルハ而有ノ約テアリノミト思ハレカノ漢籍訓ニ瑟兮シツタリナド様ニ云ル〇〇あり
 ノ約カノハ雅文ニハ見當ラヌ様ナレド古事記傳九七ニ任ノ解釈云然ル意ニテ今此
 辞ヲ用ツカハンモ憚レベキニハ非シ歟精日下印本乃あつる衣云あふれハ五日乃あつる月二せうとく
〇〇人ほくよりきて此レ等モシコレナラムキ

けり 將然

將然言ヲ受ル

〇五

うめのむほしきそのま方柳もうづるまきなぐさあり〇〇くさや

うづるまきなぐさハ花デモ柳デモ頭ニサス様ニ云フデ柳モ青々ト邑付テ慰ニ

戯ニ頭リニサス様ニ成ツダチマナイカト云ハ彼レ為有ラせりマウツツニルヲ傳音シテ

ノ類ノ傳用ニテカヅラニスベクナリニ來有キアラスヤキハカレド

けり

連用

けり何ト連用言ニナレルハ未ニズ玉緒ニ和泉式部物語ニちりりきといへる
 詞ありハトアル今思フニコレハハきは用言ヘ連ケルニ云ヘキカ

かゝの事を云トアル類ヒラリクアレドソハゲニナホ少クテ
 カノ古今ニ人ふちを里をいひて〇〇しりどもあらぬ歌もうき名
 ナル〇ラミテレルヘキ也抑此來るノ活キニテハ希求ハ〇トノ
 ミ云ガマツノ格リナルウヘニレクニハ〇トヨモジクフル夏
 アリ又次ニ示ス為るノ同シ活キナルおもするトイフ詞ニテ
 ハたえせよト云ガ希求ノ格リノマツノ例ナレドマレニハおも
 セトノミイヒテ仰スル詞トセルモアリコレラノマレ其クハシキコ
 ハ山口采上卷ノ末ラミテ曉ラムベシ

△第十六

〔せ〕 將然

○^古又てのそや人よくらんさう花子いれをりてあつとよきん

○^日をみるへいおほくる母へよやとりせ。バのやなくあはれ名をやたちあん

佐行ニテ此変格ト云ベキハタラキ詞ハ為るトおもはるトナ

ル「ハ衢」^{上卷四}ニミエタルが如シ。ソノ中ニテ為るト云ルニツキテ

今ハ五轉ノ例証ヲ「ニ」出スナリ。たえするトイヘルニツキテソノ

五轉ノハタラキサマノ正キ。又聊異ヤウナルナドノコトカナル「

ハ。山口栞」^{上ノ四六ヨリ}シ見テ知ルヘシ。^{サテあしうノニノ辞ニウケラル、}

^{又ヘキニ。加行変格来ノ}トコロニイヘルガゴトシ。^{キハ。せ。文字連用ノ段マテ及ヒ下リ}

〔めり〕

截断。・此めを必截断言ヲ受ルニ有る。は詞ヲ受ルバカリ連射ス

めをハ。活語雑話ニ^{ニ編}ソノ辨論アル如ク。詮ハ又えかりノ約リハ

ル説。ゲニサ様ナルベシ。^{但レ目ニ視ルニカキラズ。俗ニ心ニ考ヘオモハル、コトヲ}

截断言ヲ受ルハコレ即ミえかりノ証ニ。截断言ニテ「其」ヲ

云テ。次ニ又也又えト云「例多シ。いざりせり」也。月うらも也。

月うらも也。ナド少カラズ。^{土佐日記ナルカノてら月の流る。これ}

也。ナドハイヘルモノ。臣云ベキニ似タレド。尚サニハアラジ。但レコノ「ハ別ニクハ

シク研究スヘキナリ。

○^古立田川ハモミチガチリ乱レテ今最中流レル。然ミエアルト心考

ヘテサテ。ソレデハ今渡ツタナラハアツタラ錦ガテン中カラキレル

○天の川移るる世良むへをい返らさんを秋くあむむを
○霍公鳥うひと行せらむ今年経てとらん友もまづあさるんを

〔せり〕 連用

○酒のさよさせりける枝のひ葉をよめよりけるを

○さかせこ八未ませりけらるる花の云々

けるモけらるるモ活語ナレバソレヘツケル。文字ハイツモ連用

言ナル例之

〔せり〕 截断

○いもく為いのちのこせり。よりこものたひひみそんでまねへき物を

○うきせりハ門させり。ええちねまどろくさのいろくさるる

〔せり〕 連射

○ふあそよわらむやをらん初まのむまどをせり。あきさくのむ

○いせの海にまづそすう。あまをんはいつれの藤くけくさのこせり。

いつれの藤くけニカリテ截断トナレルハモトハ連射言ナレハナリ。

〔せり〕 已然

○久しうれあむ。教あむさうむうめよさせり。どうろひよけり

○八隅知之云々天つちもよりてあれこそいな。の云々うへを

かせり。ををさるる云々 已然言ナルユエニ上ノよりてあれこそヲ受テソノムスビ
トナレルナリ。但シ万葉ニ上ニコレヲナクテヤハリ新様ナルモアリ。

此哥ノあれこそハあれむこそノむらハフケルニテ集中例多シ

ト畧解ニトケルハゲニシカル。然ルニ同唇ニコノうへをさせり

ヲモ例ノ派せれむノむノ畧ケルコトバニトケルハ恐クハフト釈キア
ヤレルナルヘシ畧解作者カバカリノヲ誤ルベキ人ニハアラ子ト
詞ノ活キ様ヲコトカニセザルユエカハルモノゾコナヒハイテ來ニケラシ
ソモ詞ノ活キト云フツ子ニコ、ロラツケズハアルベカラザルコトワリ
コレニツキテモ思フベシ。

△第九

てら 將然

○たぐふよたてら。きくふあきさこく。新本もいまい紅紫くまじ

てて 連用

○やましめくまうりけり。さほふよ。芳のたてり。たるをみて

てて 截断

○女帝むうしとみつぞゆきまをよこふうたてり。おもへ

○落洲よたてり。ナド。キレタルイト、多レ。

てる 連射

○葉はむのもよにて人の人まを。うをよめる

○うくつををやつくさん。さゆの屋よたて。ねあうなく小

てれ 已然

○をうちへしうしろめ。もえゆるが。さるやと。独りたて。れ。た。

○あごちりとも。あご。そ。た。て。れ。桜花。ま。ま。れ。あ。る。人。も。ま。ち。り。り

サテ。サ。て。れ。ト。次。ノ。へ。れ。ト。間。ニ。移。れ。ば。入。り。又。ベ。キ。カ。ヤ。ハ。リ

入ルマヅキ軟ツハトクトハイヅレヘモ定ラヌナルユエニ上頭ニ
 けて^てへ^めれトアルニ四段ノ活キノ処ニ多行ト波行トノ間ニ
 トアルト同レ^ニ此^ノ山口栞^{中ノ}ニテ考フベシサテ又後撰^{六左}
 こと^ノ一^ノが^ノあ^ノば^ノハ^ノた^ノて^レマ^シコハコ^ノノ活用ノ様ニフ^トハ^ミユレ
 ドヤハリ羅行ツ子ノ四段活^{去ル取ル}ナルベシ^{ナトニ同キ}

△第十

へら 將然

○^{万四}ま^らを^もく^くあ^ける^手た^まや^めの^あら^らた^たへ^らめ^やも
 源氏花^エニ^さく^めく^まよ^たち^いで^させ^かへ^らま^らく^を
 此ハへ^らラ^マキ^ラト^受タ^リ其^外字^津保^樓上^卷一^みこ^をら^うこ^ひ

へ^らま^らく^を源^氏柵^卷ニ^あら^らけ^をさ^しま^へら^まら^く
 ぬ[・]ま[・]ト^ウク^ルハ^土佐^日記^ニあ^らま^らく^をひ^て何^もた^もら^ず源
 氏^帚木^卷ニ^せま^らへ^りこ^もく^もあ^へら^ぬト^受タ^ルハ^宇津
 保^鶴村^鳥卷^ニり^ちま^へら^ぬ人^を落^窪津^物語^ニい^ます^で終
 へ^らぬ^ぞや[・]で^ト受^タル^ハ宇^津保^樓上^卷何^もも^あひ^まへ^らぬ^ぞ
 カク^イハ^バイ^トク^タク^レゲ^ナレ^ド詞^ハち^まま^と上^卷十三^ニコレ^ヲバ^カノ^書ニ^似ツ^カサ^ル
 二^テア^ラマ^サダ^メア^ヤレ^ルニ^ヨリ^テ初^学モ^シク^ハ心^得タ^ガヘ^モ執^セン^カト^テナ^シ

へら 連用

○^{万七}花^の市^ノノ^ど独^いて^めま^らく^くま^らく^へら^ぬぞ^や
 古^初志^か美^の心^こえ^る女^のお^わく^あへ^らぬ^ぞ
 う^つが^らず^に
 ○^こら^まよ^よへ^らま^らく^へら^ぬぞ^や

へて 截断

○大伴のうらと八いも下あねううてれるつくあしたよらへる。

○拙りふと人よみえどなまぢひユタよたりへる。あまそらねつる

但し右一本ニ念弊利ト。利ヲ訓ニ从ヘヨ。セタルモイハレタル様

ナレド。ナホ利ノ音ニ从ヘルニ从フ。

へる 連射

○まゑみりよふへる。まゑみりあつて。まゑみりあつて。まゑみりあつて。

○たまがねへる。山人の花のうけよやまあるが。まゑみりあつて。

○まゑみりあつて。まゑみりあつて。まゑみりあつて。まゑみりあつて。

へれ 已然

土佐日記 ○たりひのやうある人のいへんを

落クボ ○鍵をとらせとまへん。うちととまうくとかめたれを

古 ○ぬーちとね香こそ白ふれ。秋の野よとがねぎくけしる。まゑみりあつて

△第十一

めら 将然

万七 ○経むちく明日香の川のよめ。故もあること人のみまてふ

日八 ○十二月ハ沫雷ふるくとまゑねうも梅の花さくやめら。不有而

めり 連用

万三長 ○たりへり。妹ハあれどたのめり。こらよハあれど云

ナホよめりけるナドイヘル夥シ。

めを

截断

○^{万四}春雨を待つにわあし昔屋戸のまゝ木の梅もいまどあめを

女類多し初学モオノツカラ例知ゾスラン。

める

連射

○^{古序}ふあまうてとをたらぎ志おめるむのきあうさ

○かくぐりへううみあさせの中うりふくもあめ月うを

めれ

已然

△第十二

れら

將然

○^{古序}とやああえくそまれを

○^{後抄}あさ花の月と花をわすれくハふ志れらん

れり

連用

○^{古序}よろづの云の茶とぞあれりける

○^{万二}秋の野のみ草あきやとれりしうちのまこのうりほおもあ

れり

截断

○^古まき日障ハタハあやまそあ草のつまもこもれり我もこもれを

○^{去左日キ}たかこなとふとまうれり

れる

連射

古
○花ちきるゝあのみみくともくればふよけまもなかりユルリ
日直
○あま雲くぬるびくまろくたひのちぢるじく

如くハモト。く。あ。き。ト。活。ク。形。状。言。ニ。テ。易。ク。難。キ。ナ。ド。日。活。ナ。ル。ニ。連。用。言。ハ。受。ケ。ズ。レ。テ。連。射。言。ヲ。受。ハ。別。例。諸。書。ニ。夥。ク。三。五。又。ツ。子。ニ。貴。賤。一。日。都。鄙。一。般。ニ。イ。ヒ。ナ。レ。居。ナ。ガ。ラ。コ。レ。ハ。カ。ハ。リ。タ。ル。ト。フ。ト。フ。ト。気。ノ。ツ。カ。ズ。ニ。ス。三。テ。アル。モ。ラ。カ。シ。カ。ニ。カ。ク。ニ。如。ク。ト。云。フ。詞。ヘ。イ。ヒ。ツ。ケ。ル。ハ。イ。ツ。モ。連。射。言。ト。コ。ロ。ウ。ベ。シ。コ。ハ。必。ヨ。ニ。テ。云。ベ。キ。ト。ニ。モ。ア。ラ。マ。ジ。ド。フ。ト。思。出。タ。ル。ト。ニ。云。フ。状。言。ノ。ツ。カ。ヒ。サ。下。ノ。ク。ハ。シ。キ。ト。ハ。活。雜。三。編。ノ。終。ニ。テ。シ。ル。ベ。シ。ソ。ノ。大。カ。ク。ハ。畧。図。ニ。テ。諸。活。語。ノ。連。射。言。ヲ。受。ル。て。コ。ノ。を。大。凡。ヤ。ウ。ラ。考。ヘ。ト。ホ。サ。バ。曉。ラ。レ。ス。ベ。ク。ナ。ホ。近。ク。ハ。常。々。ノ。物。イ。ヒ。ブ。リ。ラ。気。ヲ。ツ。ケ。テ。ナル。ホ。ト。ハ。シ。レ。ヨ。カ。シ。サ。テ。連。射。言。ヲ。受。テ。如。ト。ツ。ケ。ル。モ。其。カ。ナ。レ。ニ。イ。ヘル。モ。意。ニ。カ。ハ。リ。メ。ナ。レ。雅。俗。凡。サ。様。ニ。

れき 已然

主佐目キ
○ひとりもくへーせむあつべき人もまじくど
於イ
○梅の花それともええべえこのほまじがる雪のあつてぬれむ

友鏡

△十三段ハ

畧図

第二十一段ニッニアリ

△十四段ハ

同

第十七段ニッニアリ

右ノ第七ヨリオ十二テヲ將然言

- ケ○いけらむむハ いさありむをナリ
- セ○格もせむむハ 格もあむをナリ
- テ○たてらまうむハ たぢあむまうむをナリ
- ヘ○たぐへらめやもハ たぢひあらめやもナリ
- メ○よむめらむハ よむみあらむをナリ
- レ○るまねらむハ るまよりあむをナリ

其餘ハオシテシルベク。地躰有ト同格ナルトモトヨリトシル
 べシ。サテ之ガ已然言モ准シテ。也々れ^バ「さ々れ^ド」ハ。也々^レれ
 也々^レあれ^ド。乃至^キ「れ^ド」あれ^バ「ハ。新^ク有^キ」^ト降
 在^レル^ト例知スヘシ。カクテツノあれ。ハ。モト希求ニテモア
 ル^トハ^サ六^丁ナレハ。此也^レれ^サせ^レ。て^レれ^ト白^ヘレ^トナドモ然ルヘ
 キ^ニ云^ル如^ク。理^リハ。カ^ノ居^有レ^ル約^リトオボシキガ。沖^コを^レ浪^ト三^エ
 タルト同シ^トニ。サレハコソ^ト万^五十^四。あ^きさ^らハ^マが^舟を^てん
 忘^ル貝^寄せ^来て^於家^禮か^きつ^ト。ら^浪トス^テニ^エテ^モア^ナ
 シ。然^レレ^トサ^ヤウ^ニツ^カヘ^ルラ^ハ数^々ハ^覚見^エザ^ルガ^故ニ。右^ニ々^示
 レ^ハ置^サリ^シト^知べ^シ。

